

幼稚園の教育目標

心情豊かな優しい子ども 自分で考え行動できる子ども 元気に活動するたくましい子ども

1、本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

- ① 教員の資質向上のための工夫（研究を深める）
- ② 当園の教育など、外部へのアピール方法の工夫（Instagram・HPの活用）
- ③ 保護者との連携の工夫（連絡アプリ：アンケートやおうちえん、クラス携帯、Gメールの活用）
- ④ 地域との関わりの工夫（小学校連携、中学校や浜松聖星高校との交流、地域との関わり、子育て支援）

2、評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	結果	理 由	学校関係者評価
1	保育の計画性	A	行事や日々の保育について、子どもたちの育ちや興味関心を考えながらねらいを明確にし、職員間で考え話し合いながら工夫した。	A
2	保育のあり方 幼児への対応	A	子どもたちが主体的にあそびに関わることができるよう、言葉がけや環境設定の工夫をした。臨床心理士の力を借りながら、一人ひとり丁寧に関わり、必要に応じて情報を共有し、職員皆で対応した。	A
3	教師としての資質、能力、 良識、適正	B	チームワークを大切に協力し合い保育をした。日々の保育を振り返る時間をもった。また、職員が積極的に研修会に参加できる機会を大切にし、研修報告会を行い情報共有した。	B
4	保護者への対応	B	おうちえんを活用して、子どもたちの様子を保護者の方に伝えた。クラス携帯も活用し月に2回程子どもの様子をお伝えした。また、保護者が園に出向いた時には、職員から声をかける、必要に応じて面談を行うなど、保護者の方とのコミュニケーションを大切にした。	A
5	地域の自然や社会との かかわり	A	意見交換など、小学校との連携の機会を設けた。また、同学院の浜松聖星高校の保育体験や行事参加や地域の中学職場体験などの機会を大切にした。浜松氏私立幼稚園協会の絵画展に浜松聖星高校とコラボして作品を出展した。今年度も自治会の行事にも参加させていただいた。	A
6	研修と研究	A	ごっこあそびを通し子どもたちが主体的に活動できるよう活動内容や環境設定の工夫をした。ごっこあそび参観を実施し、保護者の方、他園の先生や小学校校長などにもご覧いただき意見をいただいた。	A
7	外部アンケート	A	行事後にアプリでアンケートを実施。日々の保育の様子をおうちえんで毎週知らせながら、行事のねらいなども丁寧に伝えることで保護者の方もアンケート回答を積極的にしてくださっている。子どもたちの成長が見られた、家でも楽しそうに活動した内容を話してくれる、職員が丁寧に子どもたちに関わっている姿が見られたという意見を多くいただいた。	A

＊ 結果の表示方法 A 十分達成されている B 達成されている C 取り組まれているが成果が十分に出ない D 取り組みが不十分

4、本年度の重点課題の総合的な評価結果

・浜松聖星高校との交流（保育体験、行事の手伝い）は、子どもたちにとっても生徒さんにとっても良いものとなった。また、地域の中学生職場体験や授業を通し、保育への興味を持つきっかけになったと話をいただいた。自主実習なども積極的に受け入れをしている。

・職員間での日々の振り返りの時間も大切にし、一人ひとりの様々な気付きが職員の質の向上に繋がるよう意識した。また相談しやすい雰囲気を中心掛け、風通しの良い環境を大切にした。

HPやインスタグラムをこまめに更新し、園で大切にしていること、それによって育つ子どもの姿などを積極的に外部に発信している。

保護者との関係では子どもの様子を伝える時、全ての保護者の方に偏りなく伝えられるよう気を配った。

月に2回程電話での連絡や直接顔を合わせて担任から子どもの様子を保護者に伝えている。

今年度も自治会の行事に年長児が参加し、自治会の方に保育の様子をご覧いただく機会を設けた。

子育て支援としてのつぼみっこ、こひつじサークルに加え、地域に開かれる場として浜松市の乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）を実施し、保護者の負担軽減になるようにした。

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
教員の質の向上（教育）	・引き続き、風通しの良い職場の良い雰囲気作りに努め、保護者の方の園に対する安心感に繋がるよう心掛けていく。 ・子ども主体の活動が充実したものとなるよう、日々の保育や行事について、研修したり話し合ったりしながら保育や行事の工夫をしていく。
地域との関わりと地域としての園の役割 （子育て支援・連携）	・今後も小学校との接続教育を意識しながら、小学校との意見交換や参観の場を大切に考えていきたい。 ・浜松聖星高校との交流を当園の特色として、交流の工夫をしながら充実させていく。 ・子育て支援については、今後も、多くの方に利用していただけるように工夫していく。 ・乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）については、園としても情報を発信し、地域の子育て支援の場として機能していけるよう整えていく。 ・今年度は5歳児健康診査のモデル園として市と協力し取り組んだ。来年度も5歳児健康診査のモデル園として取り組む中で、幼小連携にも繋げていきたい。

6、学校関係者評価委員からのコメント

・浜松聖星高校との交流は、子どもたちもとても楽しみにしている。現代は兄弟が少ない家庭も多いため、とても良い機会だと思う。高校と隣接していることもあり、交流もしやすいと思うので、これからも大切にしてほしい。保育ボランティアや行事の手伝いでは、生徒さんも積極的に子どもたちと関わってくれ子どもたちもとても嬉しそうだった。とても良い関係ができているので、交流の機会を続けてほしい。

・PTA 役員として園と連携をとる中で、先生たちがどんな想いで園の活動に取り組んでいるのかや、園の教育の視点も伝わってきて良かった。また、保護者や園と同じ方向を向いて活動できたことがとても良かった。